

のぎてんもくちやわん
「禾天目茶碗」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（考古資料） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市上山田温泉
- 所 有 者 個人
- 概 要 瀬戸古窯
寸法 器高 7 cm、口径 12.3 cm、底径 4.4 cm、底厚 0.4 cm
- 時 代 室町時代中期以降
- 公 開 個人所有のため非公開

上山田地区^{じょうのこしてんじんばら}城野腰天神原出土のこの禾天目茶碗は、濃尾平野^{のうびへいや}の瀬戸地方で製作されたものであることが明らかになっています。しかも禾天目茶碗は遺存例も非常に少なく、かなりの優品で、やや風化が進んでいますが保存状態は良好です。

胴部から急に立ちあがり内ぞりし、口縁部で再び急に外ぞりする古瀬戸系の特徴がよくみられ高台もけずり出しが入念に行われています。茶褐色^{ちやかっしょく}から灰褐色^{はいかっしょく}に風化していますが、禾天目釉の行われたものとみることができ、室町中期以降のものであると思われます。

なお、天神原地籍は戦国時代、山田氏（のち屋代氏^{やしる}ほか）の居館があったとされる地域の一部で、関係を考える上で重要な場所です。

